

|                       |                          |           |       |  |
|-----------------------|--------------------------|-----------|-------|--|
|                       | 新潟市教育委員会 平成17年8月 臨時会会議録  |           |       |  |
| 日 時                   | 平成17年8月2日(火) 午後2時00分     |           |       |  |
| 場 所                   | 市役所 第2分館 3階 教育委員会室       |           |       |  |
| 出席委員<br>(5名)          | 高 山 委員長                  | 欠席委員      |       |  |
|                       | 白 勢 委 員                  |           |       |  |
|                       | 山 田 委 員                  |           |       |  |
|                       | 小 池 委 員                  |           |       |  |
|                       | 佐 藤 教育長                  |           |       |  |
| 会議に出席<br>した職員<br>(9名) | 職・氏 名                    |           | 職・氏 名 |  |
|                       | 学校教育部長                   | 加 藤 三 郎   |       |  |
|                       | 生涯学習部長                   | 佐 藤 信 幸   |       |  |
|                       | 総 務 課 長                  | 眞 島 幸 平   |       |  |
|                       | 学校指導課長                   | 伊 藤 充     |       |  |
|                       |                          |           |       |  |
|                       | 総務課長補佐                   | 斎 藤 仁     |       |  |
|                       | 総 務 係 長                  | 大 井 聡     |       |  |
|                       | 総 務 課 主 事                | 山 際 幸 太   |       |  |
|                       | 学校指導課長補佐                 | 川 端 弘 実   |       |  |
|                       | 学 校 指 導 課<br>総 括 指 導 主 事 | 工 藤 ひ と し |       |  |
|                       |                          |           |       |  |
|                       |                          |           |       |  |
| その他の<br>出席者<br>( 名)   |                          |           |       |  |
|                       |                          |           |       |  |

|              |        |                             |
|--------------|--------|-----------------------------|
| 開会           | 時 刻    | 午後 2時00分                    |
|              | 宣 言 者  | 委員長                         |
| 選挙           | 議案番号   | 件 名                         |
|              |        |                             |
|              |        |                             |
| 付議事件<br>(1件) | 議案番号   | 件 名                         |
|              | 議案第15号 | 平成18年度に中学校で使用する教科用図書の採択について |
|              |        |                             |
|              |        |                             |
|              |        |                             |
|              |        |                             |
|              |        |                             |
|              |        |                             |
| 報告<br>( 件)   | 記 号    | 件 名                         |
|              |        |                             |
|              |        |                             |
|              |        |                             |
|              |        |                             |
|              |        |                             |
| その他<br>( 件)  | 記 号    | 件 名                         |
|              |        |                             |
|              |        |                             |

## 第1 開会宣言

○委員長 午後2時00分開会を宣言する。

## 第2 会議録署名委員の指名

○委員長 白勢，小池両委員を指名。

## 第3 付議事件

○委員長 本日の議題は，平成18年度に中学校で使用する教科用図書の採択についてであります。本日のこの会議におきまして9教科すべての教科用図書についてどの出版社のものを採択するかを決定いたします。

議案第15号について非公開扱いとする旨を宣言し，全委員これを了承する。

○委員長 18年度に使用します教科用図書は，9教科134冊の中から採択することになりますが，これまでの会議で採択のための現場教師を中心とする専門調査委員会，さらにその調査研究を受けて審議を深める教育専門家，有識者，保護者の代表などで構成する選定委員会を設けまして真摯にご審議していただきました。その結果について報告を受けていることについてはご承知のとおりです。答申の結果，9教科72冊の推薦をいただいております。そして先月の定例会でその選定委員会の答申を尊重するという基本的立場を確認しまして採択の予備的審議を行ってまいりました。したがいまして本会議におきましても先の定例会の審議と同じく選定委員会の推薦図書を中心として検討したいと考えます。もちろん選定委員会の答申は，絶対的拘束力はありませんので，それ以外の図書についてもご意見があればご発言いただいて結構でございます。採択基準としましては，すでに報告を受けました専門調査委員会，選定委員会の報告のほか，新学習指導要領に掲げてある目標，内容，また県教育委員会からの教科用図書研究資料なども参考にいただければと思います。

最初に「国語」について，意見を伺う。

|       |  |
|-------|--|
| ○山田委員 | <p>3社ありますが、特に教材の構成、単元構成と配列という全体の姿を見ますと「三省堂」が大変バランスがとれています。1年生で言えば、[話す・聞く]の領域が4、[書く]が4、[読む]が11、「言語事項」が11というかたちになります。他については「光村」が[読む]が大変ウエイトを占めていますし、「学図」については[読む]あるいは[言語事項]が多く、逆に[話す・聞く]、[書く]のほうが少ないようになっていて、そういう意味でバランスのとれた単元構成が行われているという感じがします。</p>  |
| ○小池委員 | <p>3冊ともそれぞれにいろいろな工夫がされていますし、バランスも考えられていると思いますが、いまの山田委員のご発言に同感です。</p>   |
| ○白勢委員 | <p>「光村」につきましては説明文のテーマ領域がやや少ないですし、また「学図」につきましては各学年教材の説明的文章、物語・小説ともに、3年間の段階的な系統性やステップが未整理だということから、この構成の中で「三省堂」が各学年教材の説明的文章、物語・小説、詩ともに、3年間の段階的な系統性が分かりやすい、とありますのでやはり「三省堂」かなと思います。</p>   |
| ○教育長  | <p>「三省堂」ですが教材末の学びの道しるべで作業の指示が明確になっているということで、授業を展開することと具体的な学習の観点、追究の視点を共有した活動が展開しやすくなるということがあります。</p>   |
| ○委員長  | <p>全体的に工夫がされていまして、生徒の関心をつなごうという努力がどの教科書にも見られます。特に近年話すこと、伝え合う力という点に各教科書とも配慮がなされているというのは、大変結構なことだと思います。「三省堂」につきまして優れているなという点は、例えば1年生の教科書の中に読み物があります、その後に学びの道しるべがありまして、まとめなどを要求しているところは他の教科書と同じなのですが、さらにその後に学びを広げるという欄、これは視野を広げ、読解力を高めるのに役立つのかと思います。例えば障害者の文章が出てくるのですが、その学びを広げるの欄で、「だれもが生活しやすい社会にするためにどんなことを工夫したらよいか考え、話し合おう」</p> |

という設問がありますが、これは国語とは少し離れた感じなんです。そういうふうに視野を広げていく、これは読解力を高めていくという意味で大変良い試みではないかと思います。「学図」にも同じような障害者の文章が載っているのですが、そういう設問はっさいありません。「学図」の良さとしては、インタビューというコーナーを設けてインタビューの仕方とかの記述があり大変珍しく、この辺は評価できると思いますが、相対的に皆さんと同じように「三省堂」が一番この中で優れているように思います。

○委員長 皆さんのご意見を総合しますと「三省堂」に決定してよろしいでしょうか。

○全委員 全員異議なく、了承する。

○委員長 「国語（書写）」について、意見を伺う。

○小池委員 選定委員会からの分析結果と教科書を見ましても、甲乙つけがたい使いやすい構成にはなっていると思いますが、「学図」の教科書のほうが焦点を絞って盛り込まれているような特徴があると思いますので、「学図」を推薦したいと思います。

○白勢委員 私も「学図」だと思います。新潟に関する資料があるため子どもたちが興味を持つと考えます。

○山田委員 「学図」について、薄墨で書いて楷書の基本を全部触れて載せてある。毛筆などはポイントをおさえることが大事だと思うのですが、その指導が大変丁寧になされており、そういう意味で「学図」がよいのではないかと思います。

○委員長 お手本となる字体も「学図」はきれいだなと思います。それで、よけいな記述がなされてなく、非常にすっきりしている感じを持ちました。特に用具、姿勢いわゆる最も大切な基本から写真を使いながら進めているのは「学図」だけだったのですが、何でも基本が大事だと思いますので、「学図」のほうがほかよりも良いのではないかと思います。

○委員長 「国語（書写）」については、「学図」を採択することとしてよ

ろしいでしょうか。

○全委員

全員異議なく，了承する。

○委員長

「社会（地理的分野）」について，意見を伺う。

○山田委員

地理的分野だけでなく，歴史的分野についても公民的分野についてもそう思うのですが，社会科という教科は，社会的思考を身につける，公民的資質を身につけるといふふうにならわれているわけですが，一方で非常に大事なのが学習過程，ようするに学ぶ意欲だとか解決の方法とかを身につけていくための学習過程が非常に大事だということです。もっと端的に言いますと問題解決的な学習過程を教師は形作っていかうとするわけですが，そういう中で教科書を生かすということになるかと思いません。しかし，指導要領の時間は前回とまったく同じで，ゆとり教育ということで時間は減り，内容も減っていると，今回学力問題から内容が増えつつあるということ，これをどうみるかによって，教科書の捉え方は相当違ってくるかと思いません。丁寧に記述されているものを大事にしていくのか，ポイント的な資料を中心にあげている教科書を大事にしていくのかと。それによって違いが出てくるかと思うのですが。今回見えますと，「帝国」，「教出」，「東書」，このいずれも内容的には相当吟味されて絞ってきているなという感じはしますが，「教出」のものが，非常に端的に教材を提示して2ページ構成で1時間という考え方を徹底している。そういう考え方でいくと「帝国」の選定委員会からの答申で出ている新潟市の課題になっている雨温図を利用して気候を考えるとということについて，8ページを取り上げるようなことは難しくなると，その辺のジレンマを感じていますが，教材を絞って端的に出していくほうが良いのではないかと思います。

○委員長

と申しますと「教出」ですか。

○山田委員

そこまでまだはっきり言えないのですが，「教出」は新潟県の教材をたくさん使っています。社会科の地域教材を生かすというのは命と言われていますが，そういう意味で大事だと思っています。「帝国」も十日町の雪下ろし，あるいは交通網の発達ということ大変ページを使って湯沢を例にいい例をあげているなど

思います。

○白勢委員

大変悩むところですが、「教出」は非常に新潟県の事例がたくさん載っており、地元のもがたくさん載っているほうが子どもたちは興味を持ってくれるのかなと思いますが、雨温図ということになりますと、「帝国」が特徴的であると思います。

○委員長

雨温図という言葉は、私どもにはなじみの薄い言葉なんです。それで新潟県の子どもたちが雨温図の読み取りが難しいという指摘があるのですが、降水量と気温の関係の図ということで雨温図と言わないほうが分かりいいような気がします。雨温図というよりも降水量と気温の関係を示したグラフですと先生方もお教えになるので、特に雨温図という言葉にとられる必要はないような気がします。私も「教出」につきまして、中越地震だとか、新潟県の地域づくりだとか、食糧生産地域の項で稲作の盛んな地域ということで土地の改良、耕地の整理など新潟県が東北地方の大きな稲作地帯になりましたという記述がありますし、主な地場産業の地図に小千谷ちぢみが入っていたり、さらに燕市の洋食器が入っていて、数的には「東書」にもあるにはありますが、非常に新潟県について良く書いていてくれるということ、それから緯度・経度の問題も新潟県の子どもは弱いという話なのですが、「教出」は、地球上の位置を知るためにとか、季節はどうしてできるのとか、時刻は世界みな同じというような見出しを付けまして、いったい何だろうと思わせながら緯度・経度の問題に移っているという、大変おもしろい展開をしているということで、私もどちらかといえば「教出」が優れているように思います。「帝国」も良いのですが、一番気になるのは、農業の面で新潟県がまったく出てこないのです。こういう稲作地帯でありながら、新潟の農業が抜けているというのは寂しい気がします。

○山田委員

「教出」と「帝国」を比べますと、大きい違いで、「帝国」は発展というのは無いんですね。「教出」は発展がいくつかあるようですが。今回の教科書の改訂で、一番今までと違うのは、補充・発展がどう位置付けられているかというところで、「帝国」はそれが無い。しかし、調査をするときに視点を一覧にして示している場面がいくつかありますが、こういうのも魅力があります。「帝国」には発展はないが、調査活動には力を入れているなど

思います。それから両方とも力を入れているのは、地誌の部分ですね。世界と比べて見た日本とか世界から見た日本とかなっていますが、この部分を両方とも大事にしています。やはり高校、3年生の公民につながっていくのは、この地誌の分野だという意味では大変大事なことだと思います。

○委員長

地域の取り上げ方について1番多いのは「教出」ですね。東京都、北海道、鹿児島県、これは県段階、それから大阪市、高知県馬路村、大阪府、沖縄県、岩手県、それから秋田の文化というコーナーもあって、新潟とどこかつながるような気がするのですが。

○山田委員

今使っているのは「東書」だということですが、「東書」から「帝国」に変わると指導書だとかも変わりますし、同じ変わるなら「教出」のほうがいいのかなと思います。

○小池委員

何をとるか非常に難しいところではありますが、地域の取り上げ方ということで新潟の子どもたちに身近なところというと新潟の事例がたくさん出ている「教出」ではないかと思いますが、資料の学び方を学ぶということでは、統計資料のグラフ化とか資料を見る視点を多く示していて、そういう技能の考え方の工夫が見られるのは「帝国」でないかと思います。

○教育長

問題としている気候と降水量のグラフは「教出」では4ページありますね。

○山田委員

「東書」は6ページですね。

○山田委員

「帝国」で気になるのは、やはり発展が無いこと、他社は全部あり、今回の改訂の柱になっているところだと思うのですが、これが無いというのは気になります。

○委員長

「社会（地理的分野）」については、「教出」を採択することとしてよろしいでしょうか。

○全委員

全員異議なく、了承する。

○委員長

「社会（地図）」について、意見を伺う。



- 白勢委員 新潟県を1ページで表しているということで、「帝国」ではないかと思います。
- 委員長 新潟県が中部地方に入っていたり、関東地方に入っていたり、東北地方に入っていたりして、新潟県の全体の地図が「東書」は出てこないのですが、この点「帝国」は新潟県が1ページになっています。
- 山田委員 統計資料を見ても「帝国」は、使えるものがたくさんでいると思います。選定委員会の資料に国別統計資料を6ページにわたって掲載しているとありますが、これなども有効に使えると思いますし、日本の統計についても同じように言えます。
- 委員長 「社会（地図）」については、「帝国」を採択することとしてよろしいでしょうか。
- 全委員 全員異議なく、了承する。
- 委員長 歴史につきましては、請願、要望、要請、意見などたくさん当委員会に寄せられていることは、先の定例会でも紹介したとおりです。つまり、世間の関心が非常に高く、この歴史的分野に集まっていると解釈することができます。また、異例のことではありますが、選定委員会から3社の推薦を受けているのですが、扶桑社についても検討願いたいという旨の付帯意見がついた答申が出ています。先日の定例会でもそれに沿ったかたちで予備的審議を行いました。そうした経緯を踏まえて審議に入りたいと思います。選定委員会の結果は「東書」、「大書」、「教出」で、それに付帯意見のついた「扶桑社」であります。世間の関心が高いこともありますので、この4社以外にも皆さんのご意見があれば伺いたいと思います。
- 「社会（歴史的分野）」について、選定3社、扶桑社以外の意見を伺う。
- 白勢委員 「清水」についてですが、特徴は多くの歴史的事象を取り上げて詳しく説明されている教科書だと思います。ページごとに歴史上のエピソードを記載してありますし、発展学習を設けて世界史的な視野から見た学習を取り入れているところが特徴的で

あろうと思います。ただ、欄外の説明は詳しいのでありますが、注釈が他社と比べると少なめであろうと思います。ページによっては注釈がないところもあるようです。新潟市の実践上の努力点の生徒が自ら学び自ら考える力を育てるという視点からは、いかがなものかなと思われま

○山田委員

「日新」についてですが、資料が小さくて文字が多いです。やはり子どもたちが特に歴史では歴史資料を基にして学習意欲を高めて、そしてその時代の文化や政治形態の特色をとらえていくというときに、あまりたくさんの資料では、子どもはパンクしてしまいます。また、読み物資料が中心になると子どもたちの資料活用能力が鍛えられないと思います。「日新」は、たいへんたくさんの内容を持ち込んでいますが、1時間あるいは授業の中でそれを生かすのは、大変なことだなと思います。あわせてその事の起こっているのは、どういう時代の流れの中にあるのかという時系列で捉えるとうことが難しくなるのではないかと思います。

○小池委員

「日文」の教科書の特徴は、関連するホームページのアドレスが紹介されているという点があります。これは非常に新しいことで、最近ではコンピューターを使つての学習というのが盛んになっていますので、その面ではコンピューターを使つて自分で調べることがやり易いかなということがあります。ただ、新潟市の生徒の学力の問題点のひとつとして、歴史的事象を時間的流れの中で把握するという面が弱いと言われているので、そういうことが容易にできる教科書を使う必要があると思いますが、この「日文」の教科書は、他社に比べて若干歴史的事象の説明が簡略であると思います。新潟市の生徒の欠点をカバーするという意味では、問題があるかなと感じました。

○教育長

「帝国」ですが、拉致問題の記述が年表では触れていますが、本文で説明されていませんし、各時代の章頭のところに中世の展示室ということで博物館をイメージするような斬新な今までないような取り組みをしていますが、新潟市の子どもたちの課題であります歴史的事象を時系列で捉えるというところから見ますと、他社は歴史的事象を時系列で眺めさせるような整理をしています。そういった面で子どもたちがしっかり捉えることができるのかなという不安があります。

○委員長 「社会（歴史的分野）」について、選定3社、扶桑社の意見を伺う。

○山田委員 教科書をどう構成するかという問題ですが、理科や社会科の教科書が文章がたくさんになるというのは、問題があると考えています。歴史資料がここに登場し、そこからその時代の特色を捉えていく形になるのが良いと思っています。そういう意味で見ますと、このように「東書」は中心資料を出しています。「教出」も「東書」と似たようなもので、もっと言葉を精選して出しています。「大書」は詳しく文章を出しています。「扶桑社」は、物語的なものをどんどん取り入れているわけですので、文字が非常にたくさんになっています。好きな人はそこに入り込んでいけるかもしれませんが、社会科の授業として問題・課題を見つけてそして資料を使って時代の特色を捉えていくということについては、難しく、配慮が今一步足りないかなと思います。もっと資料を中心に構成していくと使えるものになっていくのかなと思います。

○教育長 「扶桑社」ですが、中国、韓国それから東南アジアの侵略とかを日本はやったわけですが、それぞれの戦争の捉え方について日本に戦争をする理由があったと記述されているわけですが、その逆に占領された国の国民がどう言っていたのかという記述や戦争の物事を両面から見るという面が足りないのかなと思います。

○小池委員 歴史の教科書に関しては社会的に非常に大きな関心をよんでいまして、扶桑社を支持する意見、反対する意見と大きく分かれています。これはそれぞれ違う歴史観を持った意見の食い違いということだと思います。教科書として見た場合は、その歴史観に多少の違いはありますけれども、文部科学省の検定を通っているという範囲内での記述であると感じていまして、そうであるならば、教科書としての使い勝手、あるいは中学生レベルでの歴史教育の最も大きな目的である歴史の見方ですか、いろいろな見方がある、歴史的事象の流れを捉えるということから考えれば、中学生にそういう関心を引き出しやすい構成をしている教科書を選びたいと考えます。そういうことでは、選定委員会が推薦してきた教科書のほうが、中学生の関心を引き出

す、歴史には様々な観点があるということを示すには優れていると思います。

○白勢委員

「大書」ですが、見開きごとの写真がありますとかいろいろな資料が掲載されておりまして、多面性あります。ただ、多様な資料を用いて内容も豊富ですが、説明や解説が短い、意味づけが弱いなど、きめ細かな工夫が不足しているようです。

○山田委員

「東書」は、年表を中に入れて常に開いて学習できるようにと、同じように「教出」も中に入れてあります。年表が使いやすく構成されています。あわせて「教出」は、どのページでもそのページでやっていることは、どの時代のものなのかと、要するに時系列の中に事象を据えており、これがあると時系列の中で位置づけ易くなる、時間の流れというものを子どもの中に意識させるのに役立つと思います。「扶桑社」は、そういうものが無いわけです。そういった点では「東書」、「教出」が時系列の中で事象を抑えていくという面で有効かと思われます。

○委員長

教科書センターの閲覧者の意見の中に、「扶桑社の教科書が悪いというが、読んでみましたが、どこが悪いのか、わかりません」という記録がありました。素直に読めば、その通りで、批判する人たちの言う歴史の歪曲とか、過去の過ちを美化しているとか、そんなにひどいものではないと思います。装丁、写真や絵、資料等も、他の教科書に比べて何らそんな色はありません。歴史物語としての読み物としては、面白いと思います。また、人間コラムもよく書けています。しかし、一方、神話を含む古代の記述が多く、他の時代とのバランスが取れていません。また、天皇や朝廷に関する記述も、他の教科書に比べて多すぎるように思います。また、学習指導要領の「わが国の歴史に対する愛情を深め、国民として自覚を育てる」という点、特に「愛情」ということへのこだわりが見られるようです。例えば、日清、日露戦争に勝利したことが詳細に書かれている一方で、その後の過ちについての記述が足りないような気がします。その後の歴史事象の見方についても多面性に欠けているのではないのでしょうか。さらに、細かい点で配慮に欠けている例として、教育勅語について「近代日本の人格の背骨をなすものとなった」という記述や最後の「歴史を学んで」の中で「日本は、世界有数の経済大国を築いたが、いまだどこか自信が持てないでいる。

戦争に敗北した傷跡がまだ癒えない」ということが書かれています。これらをどう解釈すべきか、中学生に教えることは大変難しいと思います。拉致問題については、写真1枚とそれに対する短い説明だけです。他にも疑問な点がありますが、総合して「扶桑社」は中学生には、今一步、配慮に欠けている教科書ではないか。

○教育長

「東書」ですが、時代の分け方ですが古代、中世、文化といことで各時代ごとに分けて記述しています。他は古代を2つに分けて中世を1つにしたりだとかしてしまっていて、読んでみますと中世は各時代の文化財ですとか文化が他の時代と混ざってしまって間違っただけの印象を受ける恐れがありますので、きちんと分けておいたほうが理解がしやすいと思います。

○小池委員

資料の掲示の仕方でねらいに沿った的確な資料が配置されていて、使いやすく作られていると思いますので「東書」を推薦します。

○白勢委員

「東書」が一番よくまとまって表記されているのかなど、歴史的事象も多く取り扱っていますし、詳しく記述されていると思います。

○山田委員

私も「東書」かなと思っているのですが、ページの構成などを見ると「教出」も捨てがたいという感じがします。選定委員会の資料には「教出」の説明では少し物足りないという記述もあり、もう少し詳しいほうがいいのかなというのと、「東書」の形になるのかなと思います。

○委員長

「大書」は、記述がしっかりしていて、時系列についても上手に流しています。これまで足りなかったと思われる事象が取り入れられていて、読み物としてもすぐれています。また、ポーツマス条約の項で、「日露戦争や、ロシアを破ったことは、アジア諸国に刺激を与え、近代化や、民族独立運動を盛り上げました」と記述しているのは、評価できます。また、戦後の講和条約のところで「平和条約に調印しなかった国々」というコラムは珍しく、一目に値します。「記紀」についての記述、「日本の中国政策の変化」等の内容は、よく書けていると思います。全体的にバランスよく出来上がっていますが、中学生にとっては、

文章量が多いことや内容表現がやや難しいという、大きなマイナス要素もあります。「東書」ですが、歴史にアクセスとか、深めよとか、私たち歴史探検隊、スキルアップというようなコーナーを設けております。これは良い試みだと思います。それから日清日露戦争、韓国と中国の記述に関しては適切だと思いますし、太平洋戦争前後から現代までの内容につきましても無難ではないかと思えます。若干気になるのは、神話の紹介がないんですね。大政奉還の書き方については若干の不満を感じますが、奈良時代の人々の暮らしをまとめた点は大変良いことだろうと思います。「教出」については、記述が簡単すぎる気がします。歴史事象が網羅的ではないでしょうか。古代の内容が大変短く、人類の出現の記載も疑問ですし、飛鳥文化、天平文化、国風文化を並べて2ページだけで紹介していて簡単だなという気がします。あと公害の発生というところで新潟の水俣病の話が出てきます、最後にご近所調査隊というのがあって新潟市の朱鷺メッセもでてきて、新潟市にとってはひとつの話題になるかと思えます。総合しますと「東書」になるかと思えます。

○委員長

皆さんの意見をまとめますと「社会（歴史的分野）」については、「東書」を採択することとしてよろしいでしょうか。

○全委員

全員異議なく、了承する。

○委員長

公民的分野も非常に関心が高いということがありますので、選定結果の3社以外のものについても皆さんのご意見があれば伺いたいと思います。

「社会（公民的分野）」について、選定3社以外の意見を伺う。

○山田委員

「日文」ですが、単元のはじめに学習に課題と課題の追求を示していて、社会科は学習過程については課題、問題を吟味して課程を設定していく必要があると思うのですが、こういう意味では「日文」は、何をやるのかははっきり示しています。しかし、最初を書いてあるだけで、何のためにこれを行っているかということが再度示されていないために、各授業ごとにもう一度そのページに振り返って確認をしなければならず、少し配慮が足りないように思います。

○小池委員

「日新」ですが、各章末にさらに深める学習により章のまとめと発展学習が工夫している点が大きな特徴だと思います。また、人権とは何かということの人権獲得に係る動きを設けるなど、広い視野から人権を取り上げている工夫の見られる教科書だと思います。そのほかにも良い点はあるのですが、拉致問題に関する記述が少なく、新潟市の教科書として使うには問題があると感じます。拉致問題に関しては、今後の近隣諸国との関係というところで、本文の中で2行ほど取り上げているだけになっています。

○教育長

「清水」ですが、地方自治の中で住民主体のまちづくりではかなり多くの事例を紹介していますし、男女協同の関係では裁判の事例など詳しく載せていますし、非核平和では非核の宣言をしている自治体が2600あるとうことを紹介しています。これらの点は評価できますが、拉致問題は簡単に紹介している程度で写真もなく、足りない感じがします。全体的に文章が多すぎますし、課題の中心になる写真やイラストを大きくするなどの工夫が足りないように思います。

○白勢委員

「帝国」ですが、資料や囲い込みの記事が多く掲載されてまして、資料の占める割合も多いのですが、資料と本文のつながりがあまりないので授業がやりにくいのではないかと思います。

○委員長

「扶桑社」ですが、側注にイラストを使った図説・写真など多様な資料や語句の解説を配し、解説内容も丁寧です。拉致問題については、写真を含め4箇所ですべて扱っています。課題学習として「主権が侵略されるということはどんな場合か調べてみよう」という扱いもあります。これは評価できるのではないのでしょうか。一方情報化社会の項や世論とマスメディアの項では、「情報が社会を動かしている。例えば一部のメディアが自分の好む意見を流し、世論が作られていくのも、そんな社会ならではの現象でしょう」とか「マスメディアが常に正しいとは限らず、誤った情報で国民をミスリードすることもある」とか「世論操作を行うこともある」といった記述があり、マスメディアへの不信感を植え付けるような表現が気にかかります。また、世論に関して、「圧力団体の行動や陳情なども世論をつくる要素のひとつである」と本文に記し、欄外に圧力団体の具体的名前として「経団連」「連合」「日本医師会」を例示しているのは、問題が

大きいと思います。中学生に説明するのは、はばかりな内容と言ってよいでしょう。また、授業で用いるとなれば、一般的に、前例のように他社に比べて、きめ細かな配慮に欠けています。

○委員長 「社会（公民的分野）」について、選定3社の意見を伺う。

○山田委員 「教出」の紙面構成が最初にメインとなる重点的な資料を掲載して、2ページでもって1時間の授業を構成していて、使いやすくできていると思います。細かい字で読物資料を載せている他の教科書がありましたが、それと違い重点をかけたゴシック体のところや文字そのものが読みやすくできている点で学習者を大事にしていると思います。また、社会を知る・社会を見るというテーマ学習ですとかは、公民の場合は現代的な問題が多いので調べ学習につながり、良い内容構成になっています。それと多様な調査方法、学習の仕方が提示されていると思います。

○小池委員 山田委員の今のご意見に同感です。

○白勢委員 「教出」は字も大きく写真も大きいので、生徒は読みやすいと思います。

○山田委員 「教出」は、模擬裁判、巻原発、中越地震、高齢者のボランティア、拉致問題など新潟に関する教材を多く取り上げています。

○委員長 「大書」については、しっかりとした記述になっていますが、中学生には難しいのかと思います。人権のところインターネットとかネット社会を取り上げているのは現実的であって、個人情報保護法も記載してあるところは良いと思いますし、裁判員制度についてズームインというコーナーで詳しく紹介している点も良いと思いますし、社会とルール、国民の政治的自覚という現代社会の負の部分にスポットを当てて警鐘を鳴らしているところは、大変良いと思います。拉致問題は、アジアの変化という項目の中で、拉致問題を含む北朝鮮問題の解決が東アジアの大きな問題になっているという記載がありまして、欄外に写真入りの新聞記事を掲載しています。憲法の取り上げ方は、少し複雑で関連付けるのに苦労するところが見られますし、経済、財政の区分けが入り組んでいて整理するのが中学生



では困難かなと思います。

「東書」については、全体的によくまとまっていると思いますが、もう少し説明が詳しいほうがいいのかと思います。公民にアクセスというコーナーで、コラムで沖縄と基地という記述は評価できます。発展コーナーで遺伝子診断という今日的な問題についても考えてみようという新しい課題を投げかけてる点、国会の働きという項目で憲法改正と憲法調査会というのがある点などは良いと思います。領土問題については本文には無くて、地図の隅の囲みの中で北方領土、竹島、尖閣諸島を出しています。拉致問題については写真等だけで本文に記載がありません。

「教出」については、写真、グラフ、イラストの占める割合が多くてビジュアルな感じで子どもたちには親しみやすいのではないのでしょうか。副題が共に生きるとなっていますが、家族、男女、老若、人種そして地球全体を通して共生することが大切ということが読んでいと伝わってきます。家族に関してページを多く割いているというのは、現代の課題解決へ向けての取り組みとしても評価できます。拉致問題については、社会を知るというコーナーで冷たい戦争の後に残された課題として取り上げています。巻末の憲法の条文を分かりやすく解説してある点は良いと思います。社会を見るというコーナーで模擬裁判を取り上げていますが、日本でも裁判員制度が取り入れられることになりました、というだけでその関連に触れていないことは惜しまれます。

こうして考えますと「教出」がこの中では一番適当であると考えます。

○委員長

「社会（公民的分野）」については、「教出」を採択することとしてよろしいでしょうか。

○全委員

全員異議なく、了承する。

○委員長

「数学」について、意見を伺う。

○山田委員

「啓林館」の2つの教科書ですが、発展問題の扱い方をどうするかという観点でそれによって授業構成を変えてあります。「未来へひろがる」が一番最後にまとめており、「楽しさひろがる」は単元の直後にきていまして、単元のすぐ後にあったほうが使

いやすいと思いますので、「楽しさひろがる数学」のほうが良いと思います。

○委員長

思考力を高めたり自分なりの学び方を習得させるためには、各章末の利用が大切かなと思います。特に「啓林館」の「楽しさひろがる数学」は、その章末ごとに基本の確かめと章末問題を置いて、章によってはもっと詳しく、あるいは数学展望台というような数学のおもしろさ、不思議さを載せて興味を引くようにしている点は、評価できますし、見つけた数学、生活と数学というコラムもおもしろいと思います。「教出」は、章末は基本の確かめ、チャレンジコーナー、章の問題とあまりにも多すぎるように思います。

○山田委員

今おっしゃられた基本の確かめという、つまづいたら戻る場所を指摘しているというシステムは、全部の教科書にいろいろな面で欲しいなと思います。特に教科書で自分で学ぶということを考えると大変有効だと思います。

○委員長

「数学」については、「啓林館」の「楽しさひろがる数学」を採用することとしてよろしいでしょうか。

○全委員

全員異議なく、了承する。

○委員長

「理科」の審議に入りますが、先日の定例会では、第一分野と第二分野の教科書は、会社は変わらないほうが良いという話でありましたので、第一分野と第二分野について同時にしたいと思います。

「理科（第一分野）」、「理科（第二分野）」について、意見を伺う。

○山田委員

「学図」ですが、学習過程が子どもたちの考えを大事にした並びになっていると、このことは社会科と同じで非常に重要なことだと思います。それとあわせて新潟市の佐潟を取り上げているのも良いと思います。単元末に自己評価と問題という設定があり、それをやることによって基礎・基本の定着を図っていくという流れになっているのも大事であると考えます。

○委員長

私も「学図」のほうが良いと思います。実験も多くて体験的学

習に向いていると思います。大地のコーナーでは地震が火山よりも先に来ている，中越地震もありまして関心の高いものを先に出すというのは，賛成します。天気ではフェーン現象を取り上げています。新潟には非常に縁の深い現象でありますし，佐潟の写真もあります。全体的に見ますと「学図」のほうが良いと思います。

○委員長 「理科」については，第一分野，第二分野ともに「学図」を採択することとしてよろしいでしょうか。

○全委員 全員異議なく，了承する。

○委員長 「音楽（一般）」について，意見を伺う。

○山田委員 「教芸」のほうは，系統性を大事にしてそれぞれの関連を図った構成になっています。「教出」は，イメージを大事にしてページも違った構成になっています。イメージだけでなくきちっとした知識，音楽に対する理解を大事にするとすると「教芸」のほうかなと思います。

○委員長 「教芸」は，多彩で多様な展開が見られ，映画音楽というジャンルを提示しているのも面白いと思いますし，作曲者についての記述も多くあり，こういったことで「教芸」が良いと思います。

○委員長 「音楽（一般）」については，「教芸」を採択することとしてよろしいでしょうか。

○全委員 全員異議なく，了承する。

○委員長 「音楽（器楽合奏）」について，意見を伺う。

○委員長 一般と器楽合奏の教科書は変わってもいいということですが，同じほうが使いやすいと思いますし，広く親しまれている歌唱教材，鑑賞教材を基本練習や器楽合奏として取り上げ，表現・鑑賞活動との関連を図っているということから考えれば同じ教科書会社のほうが良いと考えますので，「教芸」を推薦します。

|       |   |
|-------|---|
| ○委員長  | 「音楽（器楽合奏）」については、「教芸」を採択することとしてよろしいでしょうか。  |
| ○全委員  | 全員異議なく，了承する。  |
| ○委員長  | 「美術」について，意見を伺う。   |
| ○山田委員 | 研究報告書の領域別の割合を見ると大変大きな違いがあります。1年生で「開隆堂」はデザイン・工芸5%，複合35%で、「日文」はデザイン・工芸26%，複合5%となっています。「日文」のほうが従来からきているこれまでの流れを踏襲しており，アカデミックで芸術的な深みのあるものが多い，バランスのとれた作品を紹介している，ということから「日文」のほうが良いのではないのでしょうか。                              |
| ○委員長  | 「日文」は，領域も平均的で，レイアウトが整然としていて大変見やすく，写真が美しく，大きいため迫力があって，美術作品などはその優れた様子が手に取るように分かります。生徒の作品も載せているのですが，それを少なくして質の高い作品を多く鑑賞させているのは，深みにつながると思います。日本の伝統的な色，絵画を取り扱っていることは，日本文化の良さや継承に大きな役割を果たすのではないのでしょうか。こういったことで私も「日文」を推薦します。 |
| ○委員長  | 「美術」については、「日文」を採択することとしてよろしいでしょうか。  |
| ○全委員  | 全員異議なく，了承する。  |
| ○委員長  | 「保健体育」について，意見を伺う。   |
| ○委員長  | 論理的な思考を深めるための資料が豊富であって，教科書を使った主体的な学習が展開しやすいことから，「大日本」を推薦します。  |
| ○委員長  | ほかにご意見がなければ，「保健体育」については，「大日本」を採択することとしてよろしいでしょうか。   |

|       |   |
|-------|---|
| ○全委員  | 全員異議なく，了承する。  |
| ○委員長  | 「技術・家庭（技術分野）」について，意見を伺う。  |
| ○委員長  | 技術については，両方ともコンピューターに関する単元が設けられているのですが，「開隆堂」よりは「東書」のほうが親切だと感じます。「東書」を推薦したいと思います。   |
| ○委員長  | ほかにご意見がなければ，「技術・家庭（技術分野）」については，「東書」を採択することとしてよろしいでしょうか。   |
| ○全委員  | 全員異議なく，了承する。  |
| ○委員長  | 「技術・家庭（家庭分野）」について，意見を伺う。  |
| ○委員長  | 読んでみますと「東書」は衣食住のうち食に86ページも費やして食育に力をいれていることが分かります。今いろいろ言われている食育ですが，特に新潟市は体力増強もひとつの大きな課題でありますし，食育に力を入れている「東書」のほうが新潟市には適しているのではないのでしょうか。 |
| ○委員長  | ほかにご意見がなければ，「技術・家庭（家庭分野）」については，「東書」を採択することとしてよろしいでしょうか。   |
| ○全委員  | 全員異議なく，了承する。  |
| ○委員長  | 「英語」について，意見を伺う。   |
| ○小池委員 | どの教科書もイラストを用いていますし，実際に会話をしてみる設定もしていますので比較が難しいのですが，選定資料にあります「東書」の4技能の学習のバランスがよく配置されているというのは，英語の学習にとっては大事な点だと思います。                      |
| ○山田委員 | 今お話がありましたバランスよく構成されていることについては，国語を選ぶときもそのことを大事にしてきたわけですので，その点をポイントにしていいのではないのでしょうか。  |
| ○委員長  | 「開隆堂」は，本文の下の欄にさまざまな質問があつて授業を  |

面白くできるのかと思いますし、Let's Practice, Let's Communicate, Check Your Progress というコーナーがあり確かめながらの学習に効果がありそうですし、発音についても所々に記述があり、文法も丁寧に説明がしてあります。「東書」も非常にすっきりしていますし、文法はまとめた練習として各章ごとにきちんとまとめてあります。

- 白勢委員 今までも「東書」でやってきているということですが、教科書を変えてしまうと英語の進め方で流れが変わることはないのでしょうか。
- 指導主事 現在の教科書会社の教科書を使う学年は、卒業するまで今の教科書のままです。新しい決まった教科書は、新しい1年生から使います。
- 山田委員 全教科そうですか。
- 指導主事 そうです。
- 委員長 私は特に「開隆堂」にこだわるわけではありませんので、「東書」の先ほどの小池委員のご指摘の4技能がバランスよく配置されているということで「東書」を推薦することに異論はありません。
- 委員長 「英語」については、「東書」を採択することとしてよろしいでしょうか。
- 全委員 全員異議なく、了承する。

#### 第4 閉会宣言

- 委員長 午後4時15分、閉会を宣言する。

以上、会議のてん末を承認し、署名する。

署名委員

署名委員